

Dance with Heart
The Kikunokai Troupe
We are burning with enthusiasm
in creating national art for the new era.
Chairperson Michiyo Hata

日本のおどり

発行: 舞踊集団 菊の会

〒161-0031
東京都新宿区西落合2-21-23
03-5983-6001(代表)

菊の会京都八瀬研修所

〒601-1254
京都市左京区八瀬野瀬町10
075-712-8701(代表)

http://www.kikunokai.co.jp

Dancing from the heart

新春のお慶びを申し上げます

舞踊集団 菊の会

代表 畑道代



三隅治雄作 舞踊劇「阿国かぶき」より

昨年は大変にお世話になりました。
本年も何卒よろしくお願い申し上げます。
昨年は一月の入間市と座間市の晴れやかな初春公演にはじまり、台湾、シンガポール公演、舞踊劇「阿国かぶき」で充実した公演を行わせて頂きました。
今年は一月の千葉、松戸森のホール21、東京の町田市民ホール、埼玉の栗橋町総合文化会館の新春公演で幕を明け、八月には待望の第30回教室発表会を開催いたします。
社会は今思いがけない不穏な状況にあります。菊の会は日本の文化、日本のおどりを大切に平和を願い満腔の感謝の思いを込めて洗刺と舞いつづけて行きたいと願っております。
今年も何卒、御指導、御鞭撻賜ります様、お願い申し上げます。

だんだん若くなる畑先生

舞踊評論家
福田一平
Ipei Hukuda

昨年暮、舞踊集団「菊の会」東京公演の舞踊劇「阿国かぶき」を見ながら、7年前京都南座で見た畑道代先生が10才は若くなったと思った。奇跡である。それにつられてか他の出演者「菊の会」のメンバーも、細部まで神経の行き届いた若々しい舞台を見せ作品を盛り上げていた。

芸術集団でも会社団体でも上昇気流に乗っている時は、そこにいる人々の精神状態は、不思議なオーラがあり、やる気のみなぎつていて、さっぱり年令が分からない。

幕が下りて作者の三隅先生ともども陶酔の中で、きつと忘れられない時間を持たれた事と思う。人間だれでもそんな素敵な瞬間を持つことは、一生のうちめつたにないのだから、大切にしたい。

お話によると、もう設立31年になるとの事で、また驚いた。初めからの幹部の人達は、創立時少年少女だったのだろうか。話をはじめに戻ってしまったが、本当の芸術家には年令はないのだろう。

先日アメリカの映画監督スピルバーク氏が、その教え子アクターズの人たちの質問に答えて、私が映画の中で一番大事にし、いつも印象に残っているのは、初めて未知のものと出会う瞬間だと話している。知らない星の宇宙船が家の前に止る予感がして、まぶしい光がもれるドアを開けようとする少年の心は、もう未知の世界の人なのである。長く舞踊をやっていると、誰でもそんな経験をした事があると思う。

華麗とも見える畑先生と「菊の会」は次は何処へ旅立つのだろうか。多くの未知との出会いを通してきつと魅力溢れる舞台を見せてくれるだろう。希有の人達なのだから。

動の喝采！ の文化の架け橋に

19日から30日の日程で台湾の社会教育会館（4日）シアター（2日間3ステージ）を開催し、地元メ



Message

新年あけまして おめでとうございます

中環文化基金会 理事長 翁 明顕

舞踊という芸術は他の多くの芸術と異なり人間の体で直接表現し、舞踊家の五体を通して言葉となりませぬ。

その舞踊は、時間と空間の変化によってその表現も異なります。菊の会は、日本において数多くの賞を受賞し、世界各国で公演してきた一流の舞踊団です。日本の伝統舞踊の深い意味を優雅で繊細に表現しています。創立者の畑道代女士は幼くして古典舞踊の訓練を受け、その後各地の民族舞踊を現地取材し、それを取り入れ創作された舞踊には、生命力に溢れ豊かで、情熱のある作品として表されています。

彼女は究めて近代を代表する舞踊家でありませぬ。基士の林海峯先生からの御紹介に感謝申し上げます。

中環文化基金会は国際交流の上で、新象文教基金会と提携し共同で菊の会を招聘し畑道代先生と菊の会の台湾での公演が実現しました。これによって基金会は再び豊かな文化に貢献することができました。この度の公演を促進し御尽力下さった皆様により、このような素晴らしい催しが開催できましたことを心から感謝致しております。菊の会の今後の御活躍を心からお祈りいたします。

【特別寄稿】

舞踊家の 条件

（舞踊作家）

杉 昌郎



杉 昌郎作「乙女竹」より

「芸は人なり」という言葉があります。舞踊家の条件も、結局は、そこへ行き着くのかも知れませぬ。

持つて生まれた、いわゆる天性の資質は、それこそ人さまさまです。

その天からの授かり物に、それぞれが、それぞれの方法で磨きをかけ、その資質を、最大限に活かすか、それとも、寝むらせたままに終わらせるか、それはその人の生き方次第です。

たしかに、天性の資質は人さまさまですから、芸を身につける上での、器用不器用あるいは表現の上での、ひらめきの有る無しなど、個人差はあるでしょう。

しかし、そのことよりも、というか、それだからこそ、もっと大切なのは、在るがままの自分を素直に受けとめ、もし不足

するところがあれば、その不足を倦まず弛まず、日々の努力で克服していける持続力と、それを支える精神力の強さといったものが、舞踊家たらんとする人にとって不可欠な、あるいは、かなり重要な条件かも知れませぬ。

ところで、踊りには、「巧い踊り」と「いい踊り」とがあるようです。

多くの記憶にあるその代表例は、いずれも近代の名人といわれた、六代目菊五郎と七代目三津五郎の踊りです。六代目さんの踊りは、当時子供だったはくにもよく解る巧い踊りでした。それに対して、七代目三津五郎さんの踊りは、大人になつたままになつて、その本当のよさが解る踊りでした。ことほど左様に、舞踊家の条件は千差万別、自ら創り上げるものようです。

両国で感 台湾・シンガポール

文化庁国際芸術交流支援事業により10(間4ステージ)シンガポールのビクトリアディアにも大きく報じられました。



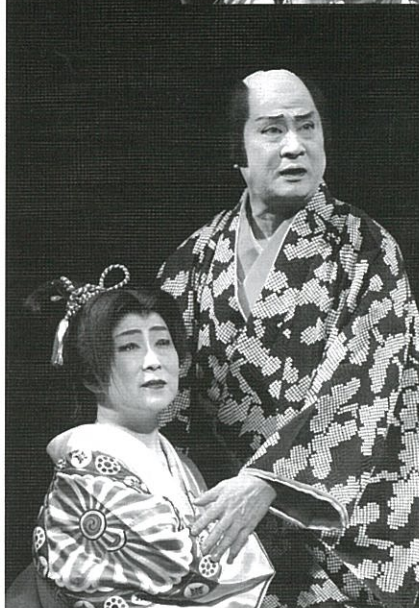
菊の会シンガポール公演に寄せて

シンガポール国家芸術理事会
主席 劉 太格

シンガポールがアセアン-日本交流年の一端を担うことは誠に光栄に思っております。このイニシアチブはアセアン各国と日本のつながりを強化するだけでなく、アセアン諸国の経済をも強力にするものであります。この交流のために開催されたものの活動の領域は、音楽のリサイタルから経済フォーラムでの意見交換まで多岐にわたるものでした。芸術・文化を促進し友好を深めるために舞踊は、最も万人に通じる言語の一つで舞踊よりも優れた方法が他にあるでしょうか。世界的に有名な菊の会は、多くの賞を受賞した創始者の畑道代女史によって創作された日本舞踊を公演しました。民族舞踊と芸能を基

にしたこれ等の公演は皆様方を魅了し、気持ちを高揚させるでしょう。日本舞踊は、これまで多くの日本のアーティストがシンガポールに来て数々の公演を行った-----それ等を見事に完全なものにします。これらの公演のいくつかは国立芸術協会と日本大使館の共同で主催されたものであり、それは両国の友好関係の証明です。私はこの関係が今後とも引き続き、更に深くなり、相互利益となっていくと確信しています。シンガポールを代表して、菊の会を大歓迎するとともに日本とシンガポールのより一層の文化交流を期待しています。(プログラムより)

(和訳 邱慧明氏)



三隅治雄作品の大作「阿国かぶき」が400年の時空を超えて今甦る!

歌舞伎発祥400年に当たり、12月2日埼玉県富士見市を皮切りに、4日、5日浅草公会堂、9日サンシティ越谷、11日日野市民会館に於て9ステージが行われました。初演から9年ぶりで、若柳雅彦氏を名古屋山三に迎え、京都南座公演から8年ぶりの再演となり、各地で大きな反響を呼びました。



波多 一索

Issaku Hata

邦楽研究家、元ビクター伝統文化振興財団理事長

平成十五年は、出雲の阿国がかぶき踊を京の人々の前で初めて披露したと言われる慶長八年から数えて四百年にあたる所から、各地で関連の催しが行われた。菊の会の九回の公演もその一つで、浅草公会堂で舞踊劇「阿国かぶき」を拝見した。(初演は平成六年) 第一幕畑道代の「阿国かぶき」の稽古場風景から始まる。振付に悩む畑が阿国と山三の昔に思いを凝らすうちにいつしかその執心が通じて二人の霊が夢の中にあらわれて来る。この阿国の一期を賭けた踊りの追体験の台本演出(三隅治雄)がよく出来て

「見果てぬ夢いざよやかぶかん」

美術のスタッフと菊の会との長年にわたって培ってきたチームワークの素晴らしさが光る。二人の創造した「かぶき踊」も頂点に達し、名声を築いた阿国なのに真似もの続出する女かぶきにはもはや未練はないと、再び新しい夢の創造へと旅立つて行く。元の稽古場に残留するのはその二人の精神のみ、その転換がもう一つ明瞭でなかつたのが惜まれる。とはいえ畑道代は舞踊家としての理想、見果てぬ夢を今後も見続けて行くことだろうし、私たち観客も一緒にその夢を共有していきたいと願う気持ちに変わりはない。



菊の会公演 鑑賞ツアー



中野 三郎
Saburo Nakano

プロフィール

高野山大学、立正大学教授を経て創価大学教授（文学部社会学科）現在は同大学名誉教授

台湾・シンガポール両公演とも、成功裡に終了。両会場共フィナーレで畑先生を中心とした舞台のメンバーと客席との国を越え、民族を超えての交歓の感動を忘れることは出来ない。ツアーも極めて順調に進行し、参加者一同元気で充実感をもって帰国した。（以上）

「台湾・シンガポールコースに参加して」



26日の夕方、シンガポールに到着。翌日は終日、市内観光。街は掃除や樹木の手入れが行届き、実に清潔な街との印象を受けた。シンガポールは中国人、インド人、アラブ人、マレー人と様々な民族が暮らしている多民族国家である。夜はピクトリアシアターで公演を鑑賞。会場は満員の盛況で、若い人の来場も多く、活気に満ちていた。

台北では世界の四大博物館・美術館の一つとされる故宮博物院を半日かけて駆け足見学した。

このツアーは10月24日から28日にかけての4泊5日の旅であった。私は82才の高齢だが、絶好の機会でもあり、妻共々、意を決して参加することにした。出発当日は日本晴れに恵まれ、快適な気分



シンガポール南洋大学での交流会



台湾公演にて若手スタッフと共に。皆さん！本当にお疲れさまでした！



終演後、堂本千葉県知事との記念撮影（向かって右前列には吉野県会議員）

Kikunokai News

賑やかに前夜祭を開催し、2日間に渡った教室発表会

8月9、10日には第29回教室発表会を板橋区立文化会館に於いて、初の前夜祭を設け更に充実した2日間で24教室、287名の出演者により賑やかに開催されました。

第6回を迎えた荒川区共催公演

9月には恒例のACC荒川区地域振興公社主催、荒川区共催の「日本のおどり 伝統と創造」清元「熊野」狂言舞踊「棒しばり」舞踊選集「四季に舞う」が7日に荒川区教育長石橋伸一郎様よりご祝辞を頂き、サンパール荒川で開催されました。

千葉県堂本暁子県知事が出席の「日本のおどり」公演

続いて15日から20日にかけて、鹿嶋市 所沢市 松戸市 江戸川区 千葉市で「日本のおどり」義太夫「延年三番叟」創作舞踊「寒牡丹」狂言舞踊「釣女」民族舞踊詩「海はるか日本を躍る」を公演しました。この公演には、御多忙の中、千葉県の堂本暁子県知事をはじめ、内田俊郎鹿嶋市長、川井敏久松戸市長、多田正見江戸川区長ほか多数のご来賓が御出席下さり盛会裏に終了しました。

「心を知る」

黒澤明監督の映画「夢」を畑代表が振付られた時の事です。黒澤監督ご自身がお描きになられた2、3枚の「狐の嫁入り」のスケッチを見せて頂きました。私はそれを見て鳥肌が立ちました。その絵から浮き出る異様な妖気、それでいて、また滑稽とも言える狐独特な仕草・・・数日前、畑代表が振付して下さいました時、畑代表ご自身が「狐の嫁入りはこの様に躍して下さい」と自ら躍って下さったそれと全く同じだったからです。そして、それが緊迫感のある無駄のない狐達の持つ習性を見事に形どった狐の行列となりました。後にこの「夢」の作品を見られた映画評論家の故淀川長治氏が雑誌ロードショーの対談で、この狐の振付を絶賛されていました。又「雛祭り」では雛人形が子供の優しい心に胸うちたれ「御礼に踊りを見せましょう」と雛人形達が踊り出す舞踊シーン。日本舞踊に日頃縁の薄い役者さん（約50名）に畑代表が一つ一つ丁寧に幾日も通われ教えられました。それに応えてか役者さん達は短時間で見事に覚えられました。「雛祭り」の撮影現場では、山の斜面を削って巨大な雛壇を作り、そこに5組の御内裏様とお雛様、15人の三人官女と五人囃子達の約10分間に渡る舞踊のワンシーンです。たった1回のおのみの撮影、絶対に失敗は許されないカッ

Coffee Break

トです。黒澤監督と畑代表とスタッフの緊迫した打ち合わせの後、撮影開始。流石に役者さん達の表情は素晴らしく堂々と舞っておられました。天候も良好で、そして迎えたラストシーン。目の前の雛壇が見えなくなるぐらいの大量の紙吹雪一それは桃の花の花吹雪なのです。そして山全体を淡い桃花色に包み込む様にして全てが終了しました。黒澤監督も「お疲れさん！」と雛壇から降りてくる役者さん一人一人に丁寧に声を掛けられ最期まで労っていらっしゃいました。役者さん達を思いやる監督のお心を感じました。又、駆け降りて来て畑代表と握手を交わしながら感動にむせる役者さんや目に一杯の涙の役者さんと畑代表との心かようドラマがありました。実はあの1ヶ月の稽古があの方たちにとってどれだけ辛かったかを代表は分かっていたのです。後に畑代表から振付に際し黒澤明監督からどのような要望が出され振り付けられたのですか、とお聞きすると、「超一流の方は、短い要望だけで多くを語りません。こちらからも聞かない。言われなくても監督がこうしてほしいという事に迫らなければいけない。これは、私の師匠（初代尾上菊之丞）に長年つかえて身に付けたもので、とても厳しかった。」との事。その心に一歩でも近づける様、日々精進して参ります。



佐竹 永光
Nagamitsu Satake

1973年より畑道代に師事、「若き鬼達の讃歌」で主役、沢田に抜擢される。1997年東京新聞舞踊コンクール1位入賞。文部大臣賞、東京都知事賞受賞。